

次 期

**大津市子ども・子育て支援事業計画
第2次大津市次世代育成支援行動計画
大津市子ども・若者プラン**

策定のためのアンケート調査結果報告書

概 要 版

2019年3月

大 津 市

調査の概要

調査の目的

本市における子育て支援の充実を図るための具体的な計画である「大津市子ども・子育て支援事業計画」「第2次大津市次世代育成支援行動計画」および、子ども・若者の健全育成や社会的自立を支援するための具体的な計画である「大津市子ども・若者プラン」の見直しにあたって、子育て世帯や子ども、若者の生活実態や事業に関するニーズ等を把握することを目的に実施しました。

なお、未就学児童用調査、小学生用調査の結果は、「子ども・子育て支援事業計画」で確保する教育・保育・子育て支援の「量の見込み」を算出するなど、新たな目標事業量の設定を行うための基礎資料としても活用します。

調査概要

調査地域	大津市全域
抽出方法	住民基本台帳（平成30年4月1日時点）より無作為抽出
調査方法	郵送配布・郵送回収による郵送調査法
調査期間	次期大津市子ども・子育て支援事業計画等策定のためのアンケート調査 2018年11月5日～11月22日 次期大津市子ども・若者プラン策定のためのアンケート調査 2018年11月9日～11月26日

各調査概要

	子ども・子育てに関する調査		子ども・若者に関する調査
	未就学児童用調査	小学生用調査	若者用調査
調査対象	市内在住の未就学児童（0～5歳）の保護者	市内在住の小学校低学年（6～8歳）の保護者	市内在住の15～39歳の市民
抽出数	6,000人	2,000人	2,000人
有効配付数	5,986件	1,998件	1,987件
有効回収数	2,688件	938件	497件
有効回収率	44.9%	46.9%	25.0%

※集計結果はすべて、小数点以下第2位で四捨五入したものであるため、合計値が100.0%にならない場合があります。グラフ及び表のN数（number of case）は、有効標本数（集計対象者総数）を表しています。「1 子ども・子育てに関する調査結果」における前回調査は「大津市子ども・子育て支援事業計画ニーズ調査報告書」（平成26年3月）を資料としています。

1 子ども・子育てに関する調査結果

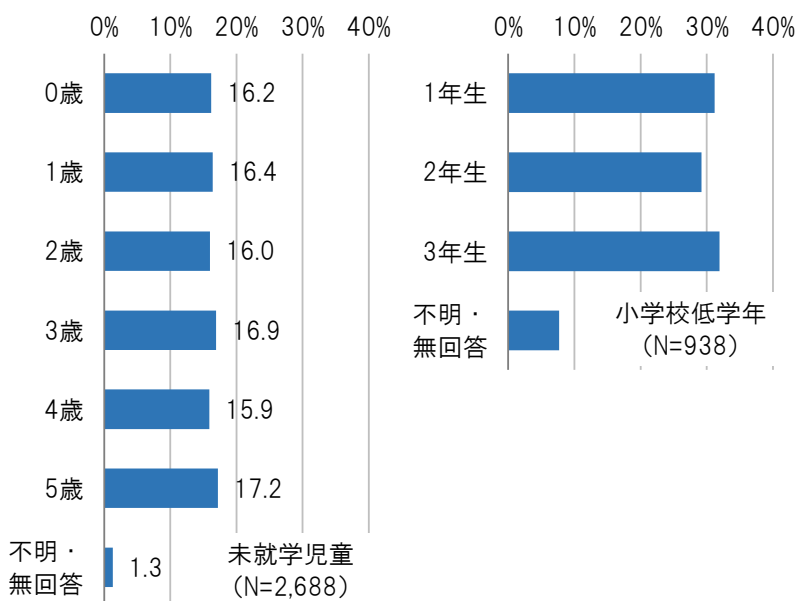
子どもや子育て家庭の属性

2世代世帯が9割。5年前より共働き世帯が増加している。

対象の子どもの年齢と学年はおおむね人口比と同様の割合であり、世帯構成は、未就学児童、小学校低学年ともに「二世帯（親、子）」が大半を占めています。保護者の就労状況は、未就学児童、小学校低学年ともに、母親では「専業主婦・主夫」、父親では「フルタイム」の割合が最も高く、前回調査に比べ、働く母親が増加しています。

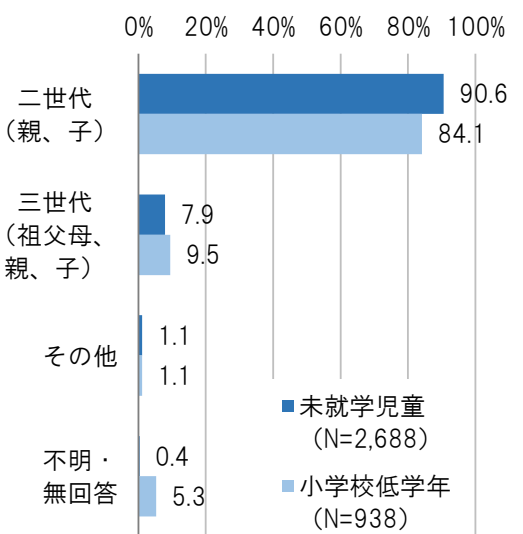
●対象の子どもの年齢と学年

〔未就学児童用調査・小学生用調査／問2〕



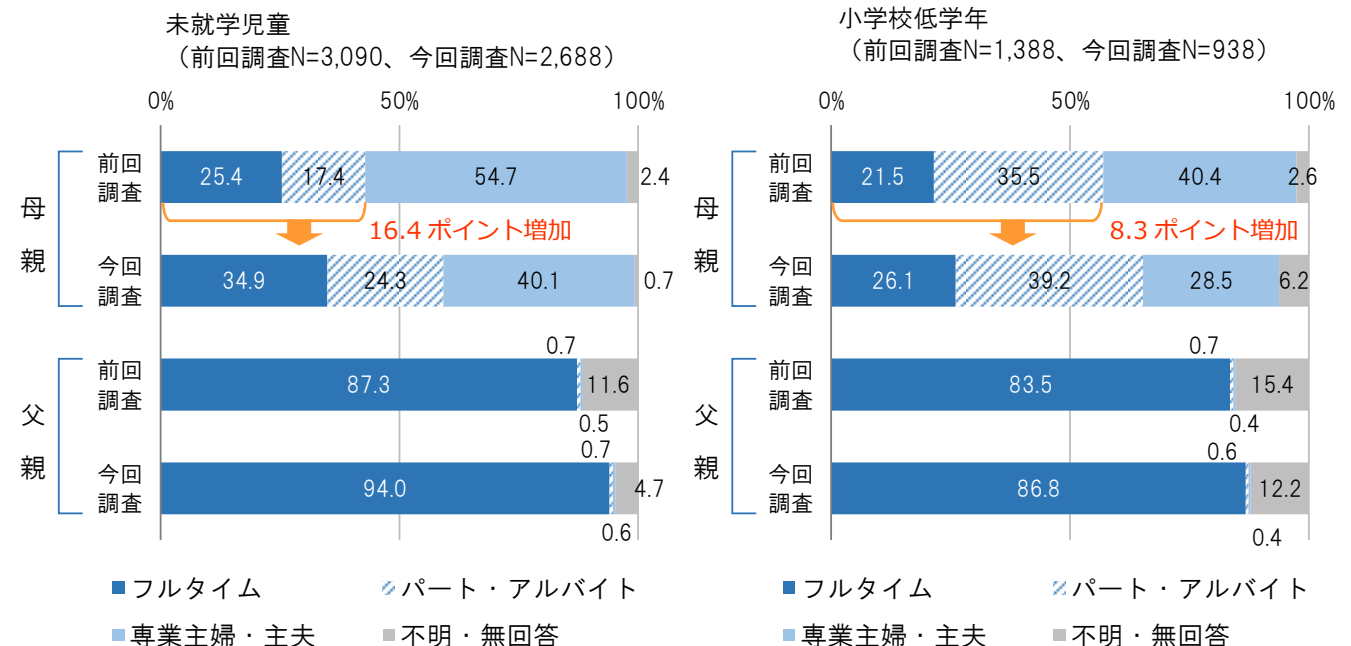
●世帯構成

〔未就学児童用調査・小学生用調査／問6〕



●保護者の就労状況

〔未就学児童用調査・小学生用調査／問7〕



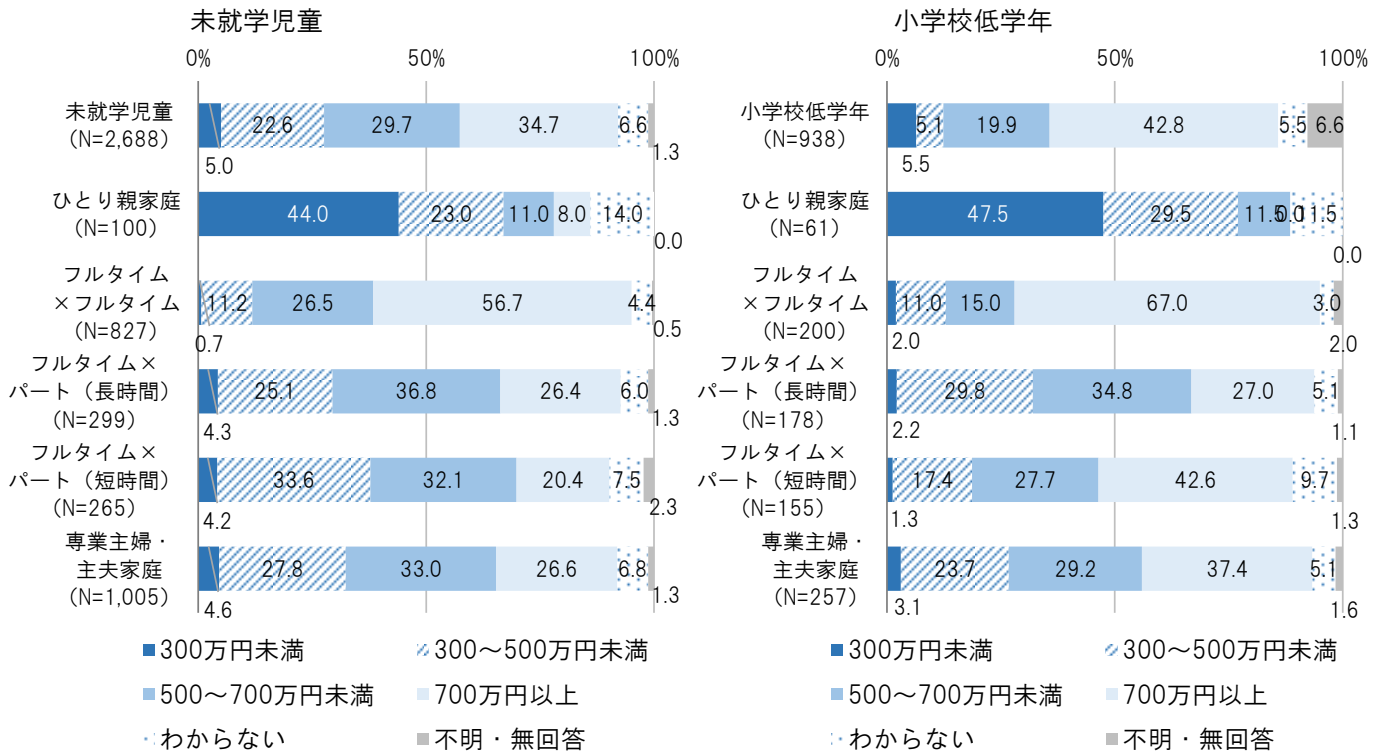
子育て世帯の経済的な状況

ひとり親世帯は特に経済的に困難な状況。経済的な困窮が子どもの学習・生活面にまで広く影響を及ぼしている。

世帯の年間総収入について、[ひとり親]では未就学児童、小学校低学年ともに「300万円未満」の世帯が4割を占めており、経済的に困難な状況がうかがえます。小学校低学年では、経済的な暮らし向きと比例して、経済的に断念した各選択肢の割合が高くなる傾向にあり、経済的な困窮が子どもの学習・生活面にまで広く影響を及ぼしていることがうかがえます。

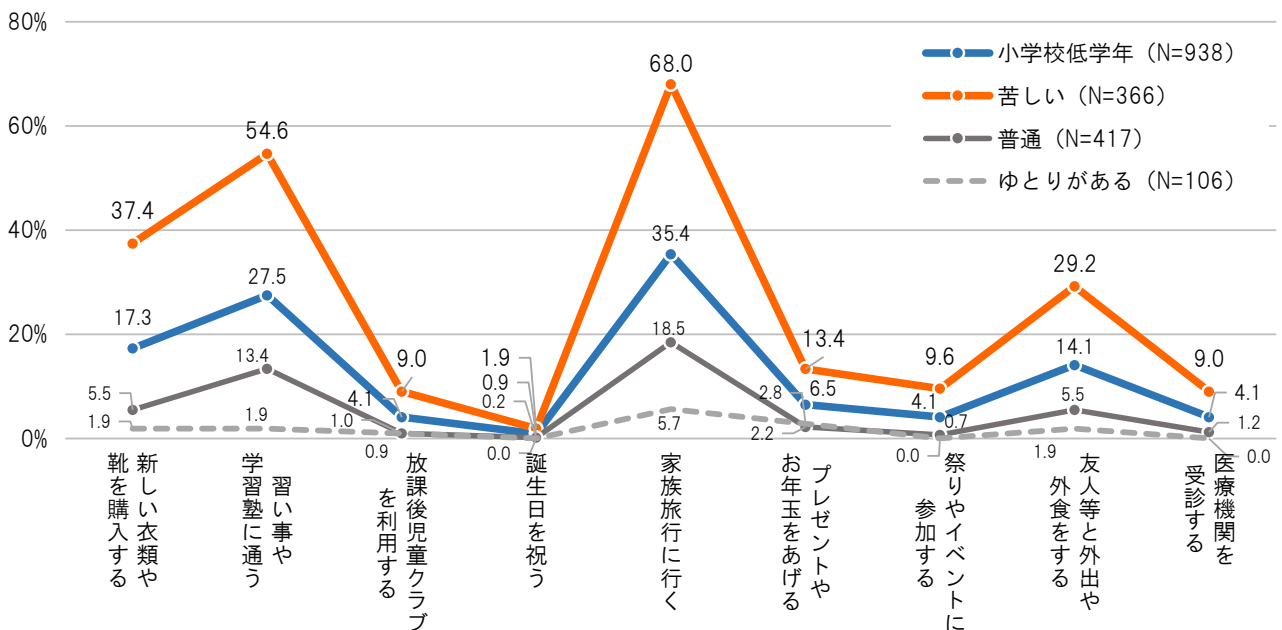
●世帯の年間総収入（税金等を天引きされる前の金額）（家庭類型別）

[未就学児童用調査・小学生用調査/問8]



●経済的に断念したこと（経済的な暮らし向き別）

[小学生用調査/問10]



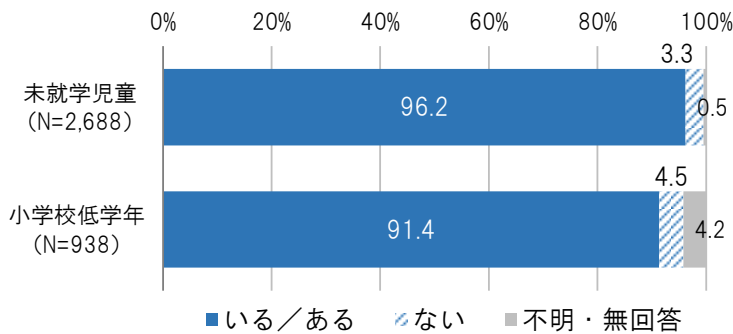
子育てに関する相談の状況

匿名性のある相談先や家庭の状況に合わせた相談方法の検討が必要。

気軽に相談できる人や場所については、未就学児童、小学校低学年ともに大部分が「いる／ある」と回答しており、相談先として「配偶者（夫または妻）」「自分または配偶者の両親、兄弟姉妹」「友人や知人」等の割合が上位を占めています。一方、気軽に相談できる人や場所が「ない」人は、相談先に匿名性を求める傾向があるとともに、「家庭に訪問して行う相談」のニーズも高くなっています。

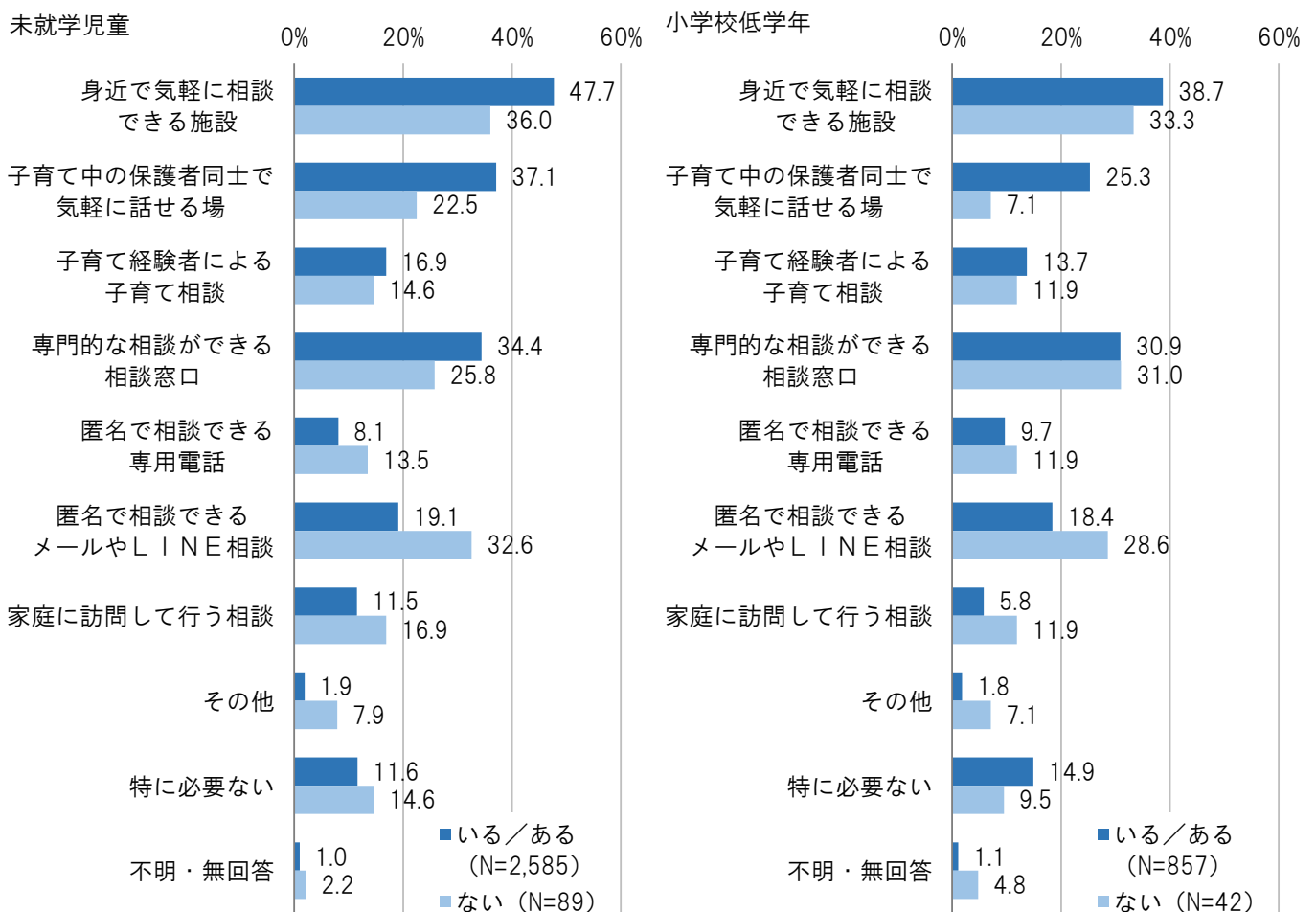
●気軽に相談できる人や場所の有無

〔未就学児童用調査・小学生用調査／問14〕



●どのような相談先があればよい、または、よかったと思うか（相談先の有無別）

〔未就学児童用調査・小学生用調査／問15〕



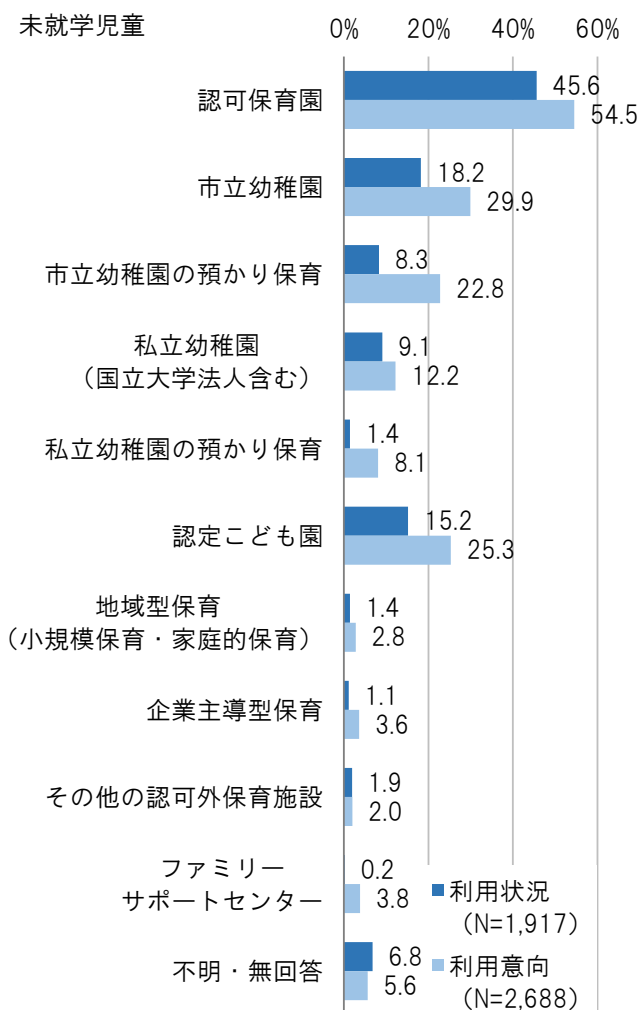
幼児期の教育・保育事業の利用状況・希望

認可保育園、市立要支援、認定こども園が利用割合、利用意向割合ともに高い。

平日の定期的な教育・保育事業の利用状況・利用意向については、いずれの事業も利用ニーズが高いものの、順位は「現在」と「希望」で変わりません。教育・保育施設の入園・入所において、大変だと感じたことについては、特に〔認可保育園〕〔認定こども園〕では煩雑な書類作成・提出の負担感が高くなっています。

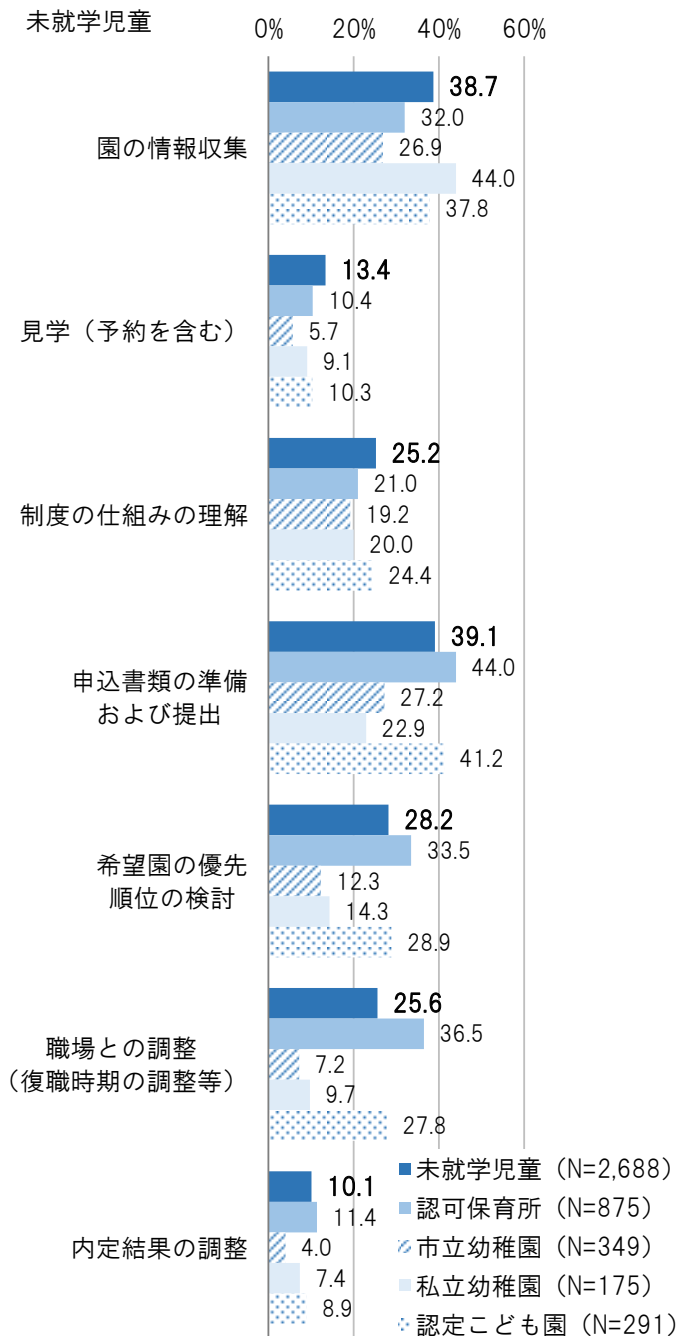
● 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況・利用意向

〔利用状況：未就学児童用調査／問 16〕
〔利用意向：未就学児童用調査／問 19〕



● 教育・保育施設の入園・入所において、大変だと感じたこと (全体および利用事業別)

〔未就学児童用調査／問 18〕



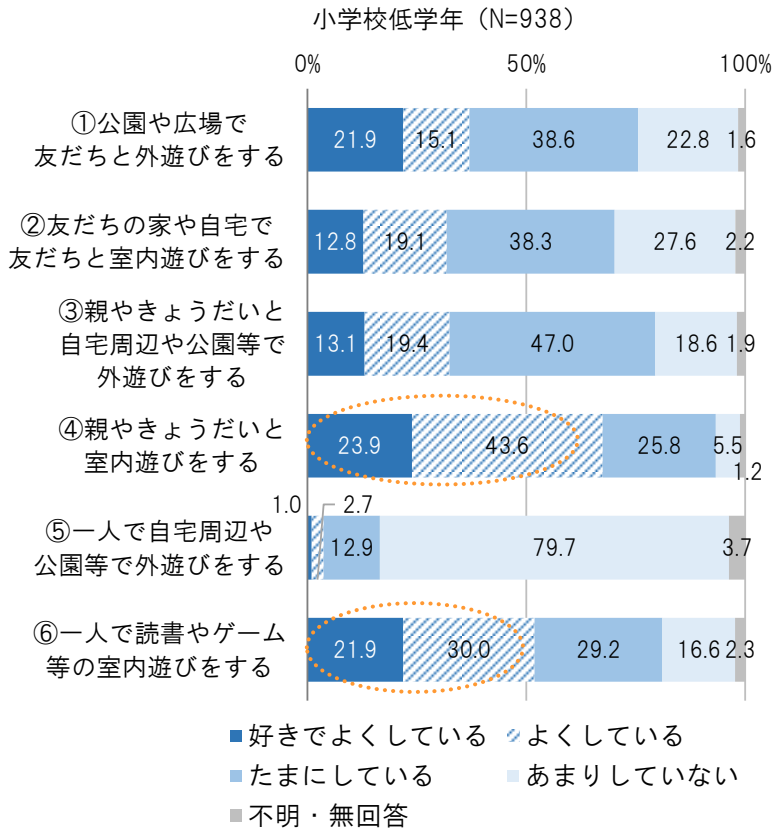
子どもの遊びの傾向

一人で、または家族と室内遊びをよくする子の割合が高い。若者世代に比べて遊びが少なくなっている。

小学校低学年の休日に好きでよくしている遊びについては、室内遊びの割合が高くなっています。若者用調査の結果と比較すると、全体的に遊びが少なくなっていることがうかがえます。

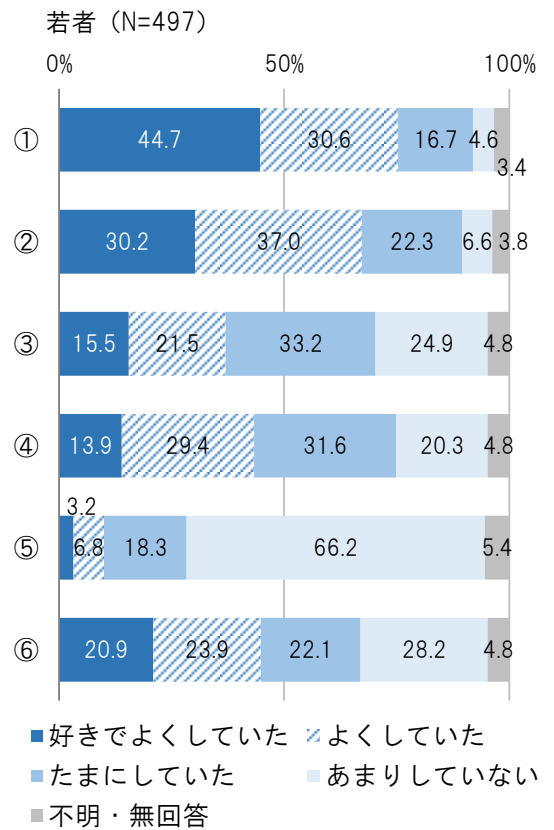
●放課後や休日に好きでよくしている遊びの状況

[小学生用調査/問 17]



<参考：若者の小中学生時の遊び>

[若者調査/問 15]

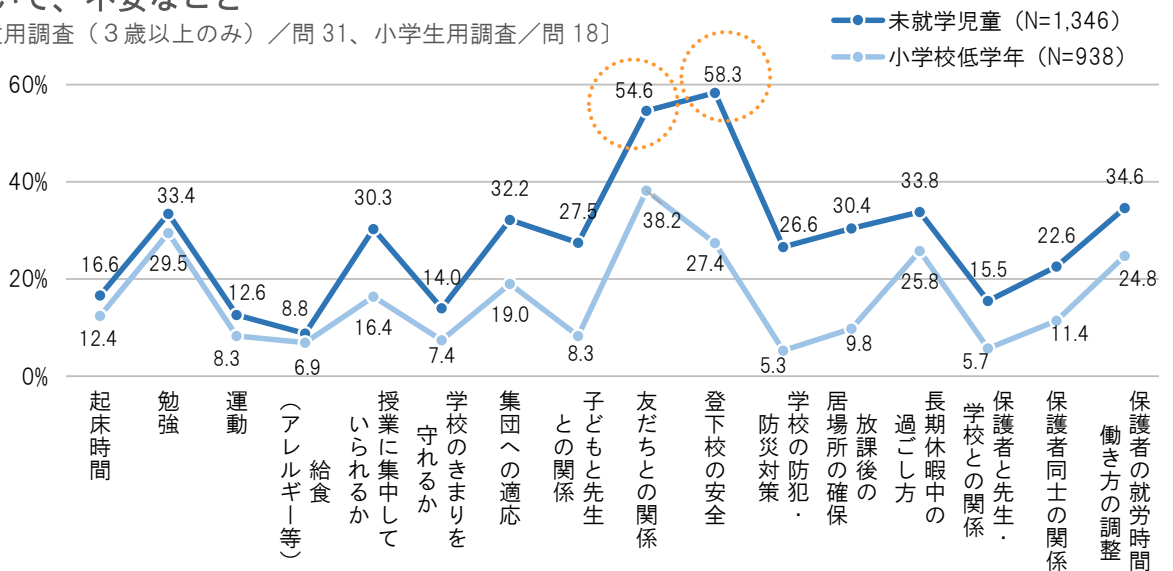


小学校就学時の不安

未就学児が就学する際の不安は多岐に渡っており、登下校の安全、友人関係で多くの人が不安を感じている。

●就学について、不安なこと

[未就学児童用調査(3歳以上のみ)/問 31、小学生用調査/問 18]



放課後児童クラブ（学童保育）の利用状況・希望

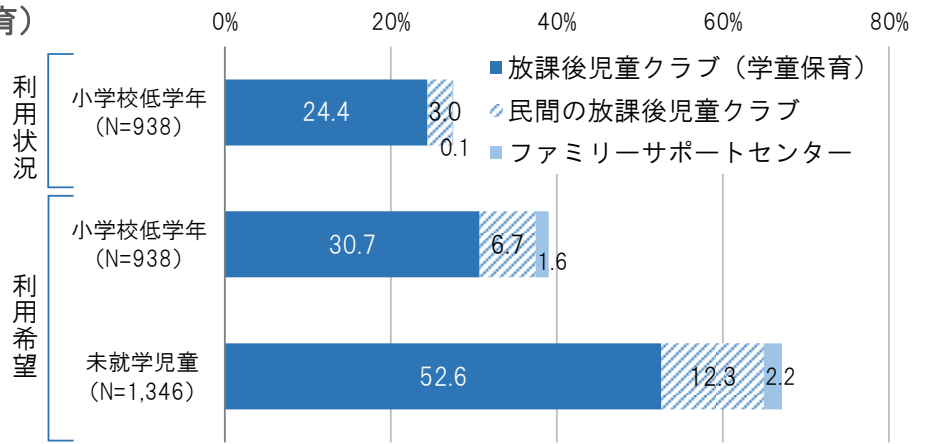
放課後児童クラブ(学童保育)のニーズ増大が見込まれる。多様な放課後の居場所が求められている。

放課後児童クラブ（学童保育）では、利用状況に比べて、小学校低学年、未就学児童ともに利用ニーズが高くなっています。また、最高学年までの利用ニーズが高く、就労意向を踏まえてもニーズの増大が見込まれます。さらに、放課後子ども教室の利用意向からは、関心の高さがうかがえます。

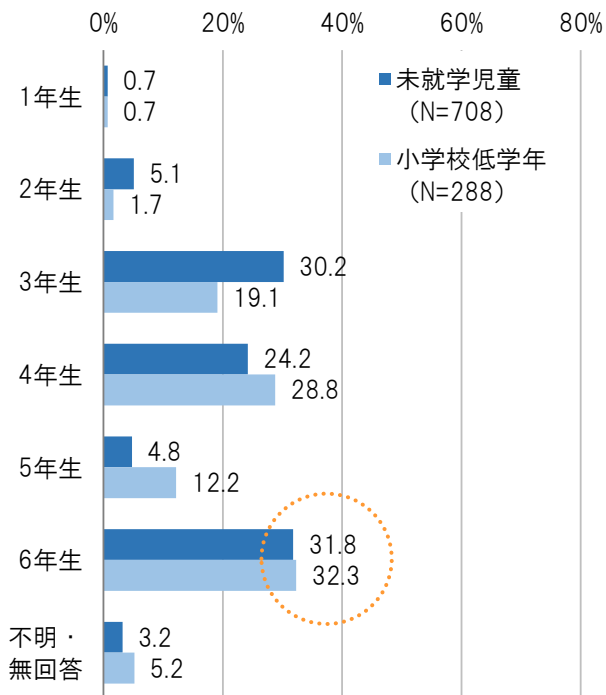
●放課後児童クラブ（学童保育）の利用状況・希望

〔未就学児童用調査／問 32、問 33、小学生用調査／問 19、問 19-1、問 20、問 20-1、問 21〕

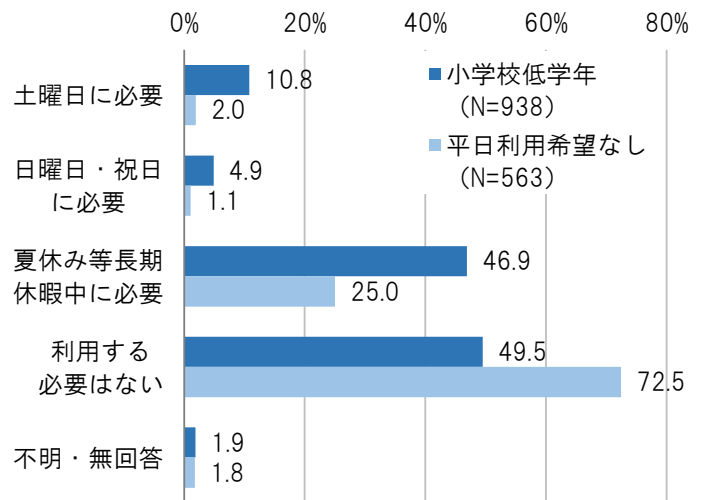
※「利用していない」も含めて再集計した値



[利用希望学年]

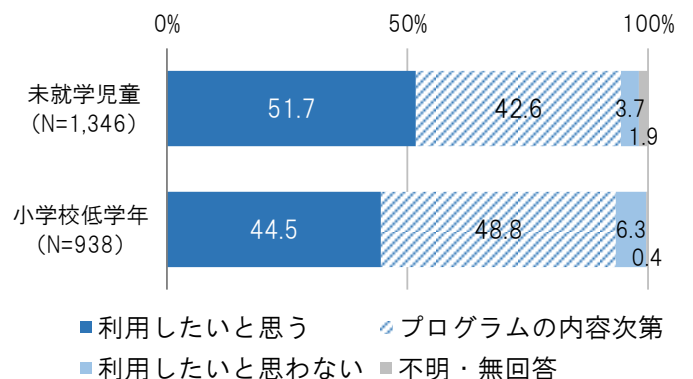


[土曜、日曜・祝日等の利用希望]



●放課後子ども教室の利用意向（放課後児童クラブの利用状況別）

〔未就学児童用調査／問 34、小学生用調査／問 22〕



保護者が子どもと過ごす時間

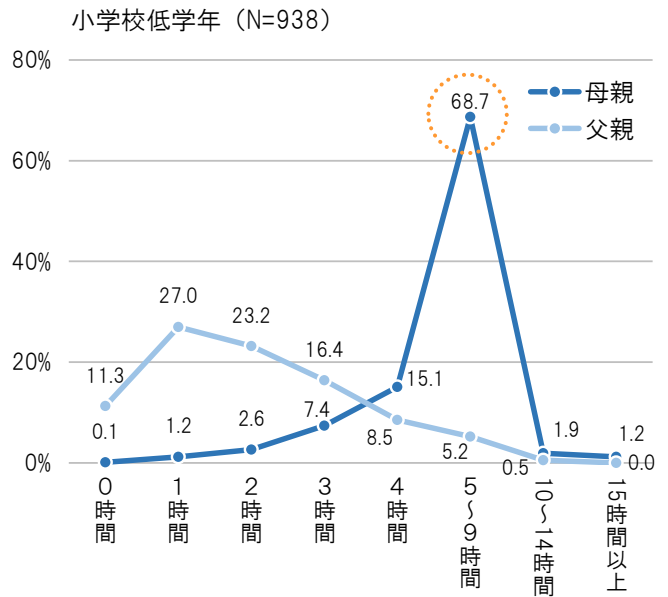
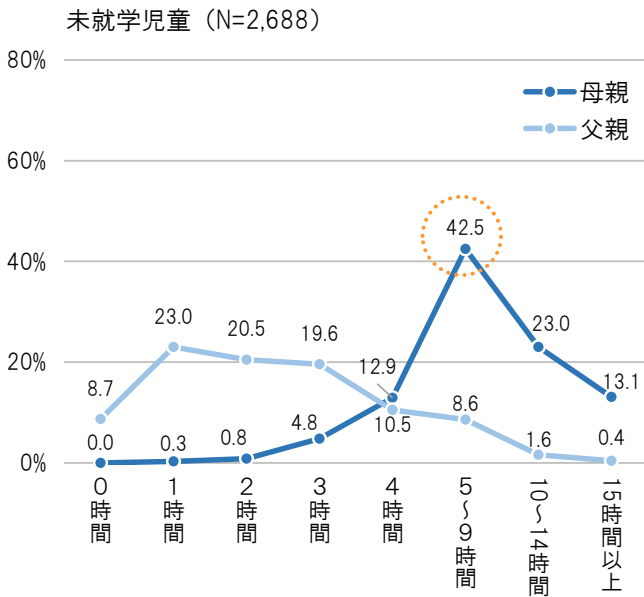
子どもと過ごす時間は母親と父親で大きな偏りがある。

5年前に比べて子どもと過ごす時間が充分でないと感じる保護者が増加している。

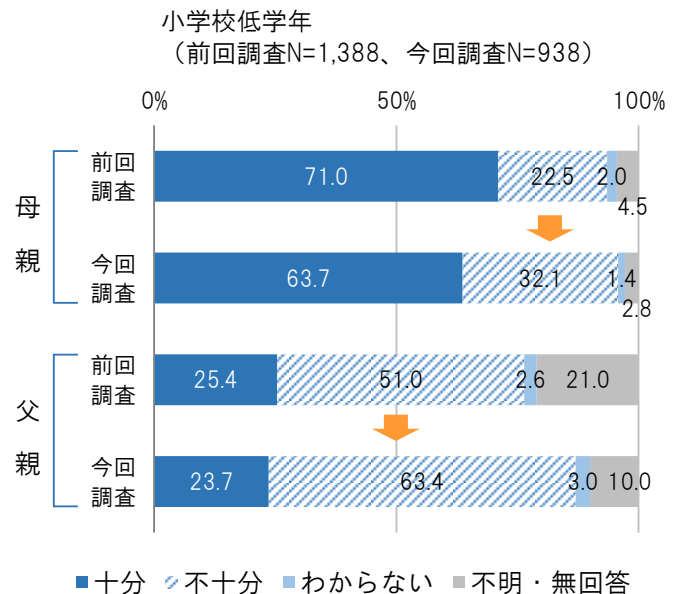
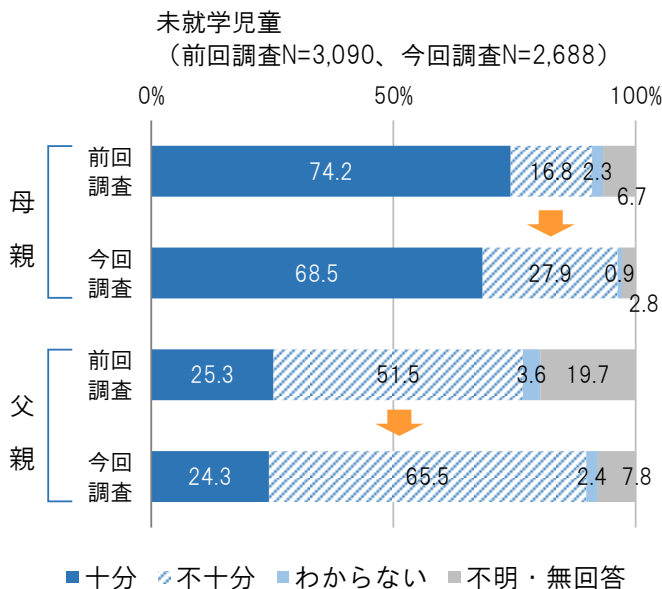
1日あたりの子どもと一緒に過ごす時間については、未就学児童、小学校低学年ともに、父親より母親で時間が長くなっています。時間の充足について、未就学児童、小学校低学年の母親、父親ともに『不十分』と感じる割合が高くなっており、今後、子どもと保護者の充実した関わりの時間を確保していく取り組みが必要です。

● 1日あたりの子どもと一緒に過ごす時間（就寝時を除く）

〔未就学児童用調査／問 35、小学生用調査／問 25〕



〔その時間は十分だと思うか〕



大津市の少子化対策や出産、子育てに関わる環境の満足度、重要度

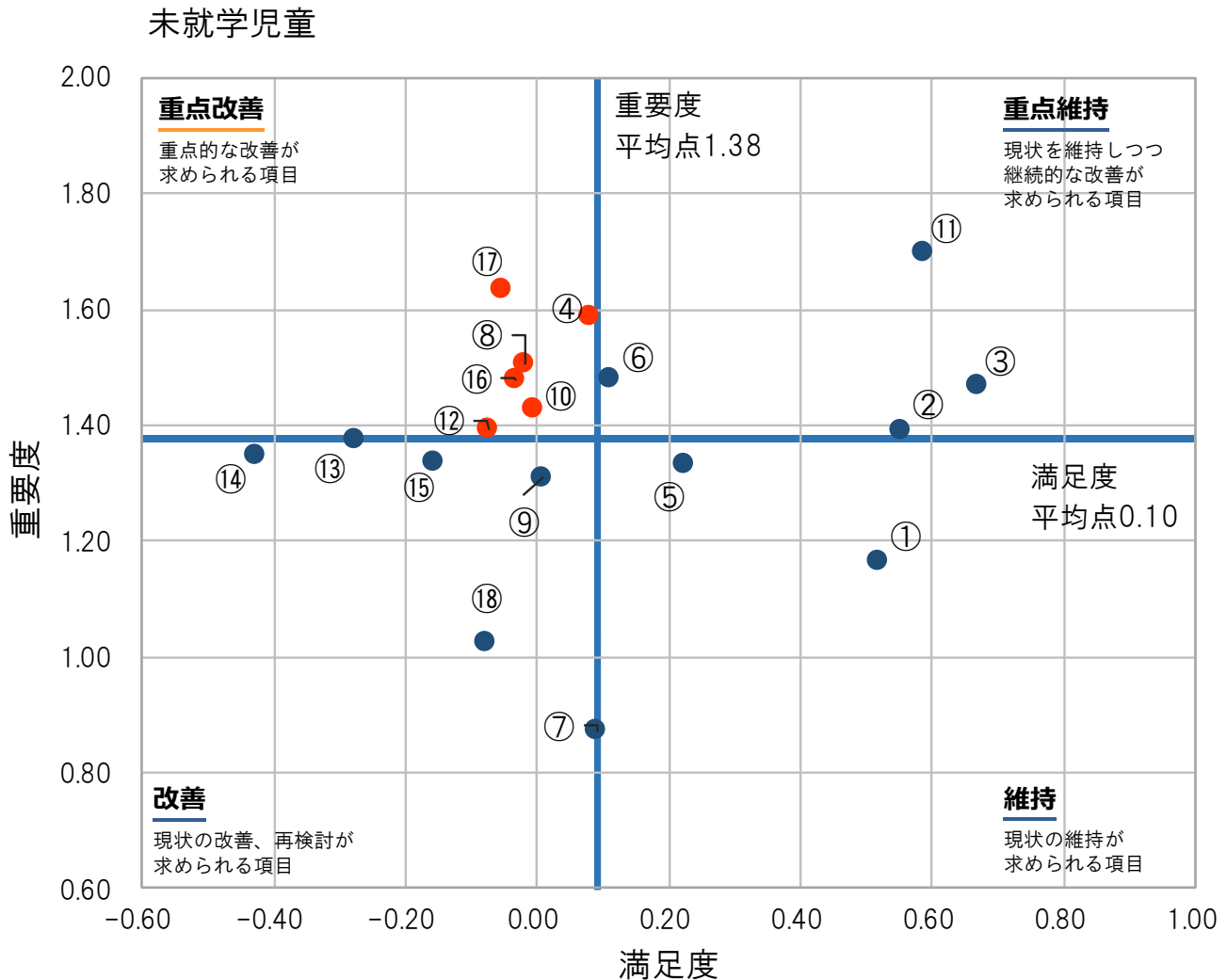
保健や医療分野では重点的な維持が、

子どもの権利と安全を守る対策や保育サービス環境の充実では重点的な改善が求められている。

●大津市の少子化対策や出産、子育てに関わる環境の満足度、重要度

〔未就学児童用調査／問 41、小学生用調査／問 30〕

〔未就学児童の満足度、重要度の比較〕



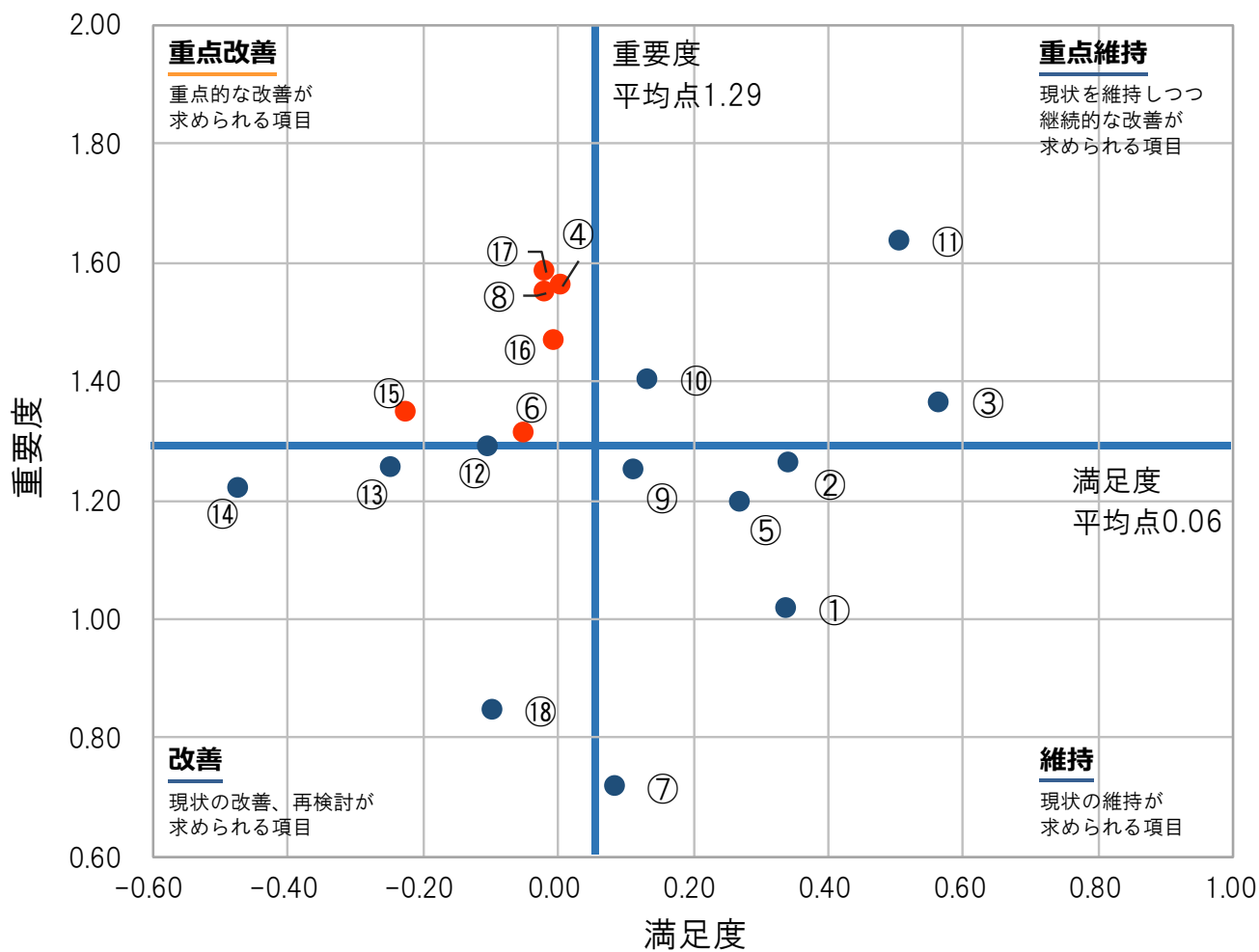
■項目一覧（実下線は未就学児童、小学校低学年ともに「重点改善」となっているもの、点線は一方のみ）

- | | |
|--|-----------------------------|
| ①妊娠・出産に関する相談窓口等の体制 | ⑩子ども自身が不安や悩みを相談できる体制 |
| ②子どもや子育てに関する相談窓口等の体制 | ⑪安心して受診できる医療機関の整備 |
| ③妊娠・出産期の母親や子どもの健診や健康教育 | ⑫雇用の安定（正規職員への雇用形態の変化等） |
| <u>④就労支援としての保育園・放課後児童クラブ等の保育サービス環境</u> | ⑬残業や長時間勤務の解消（または、減少） |
| ⑤幼児教育としての幼稚園の利用のしやすさ | ⑭男女が共に子育てを行うための社会環境 |
| <u>⑥地域における遊び場の提供や親子の居場所づくり</u> | ⑮貧困等の困難な状況にある子どもの学習・生活支援 |
| ⑦地域で子育てを支えるための住民参加・交流 | <u>⑯児童虐待を防止するための対策や啓発</u> |
| <u>⑧子どもの確かな学力・豊かな心を育む学校教育環境</u> | <u>⑰子どもの安全を確保するための活動や環境</u> |
| ⑨子どもが参加しやすい多様な体験機会 | ⑱若い世代や子育て世代の転入を増やすための施策 |

重要度と満足度を比較すると、重点的な維持が求められる項目として、保健や医療分野が、重点的な改善が求められる項目として、子どもの権利と安全を守る対策や保育サービス環境の充実が求められています。

[小学校低学年の満足度、重要度の比較]

小学校低学年



※各施策に対する市民の評価を点数化し、満足度と重要度の2つの指標に集約することで、市民からみた施策の位置づけを示している。点数化の方法は以下の通り。

満足度：各項目について、「満足」を2点、「まあ満足」を1点、「どちらともいえない」を0点、「やや不満」を-1点、「不満」を-2点とした各回答の合計点を、不明・無回答を除いた回答者数で除し、平均点を算出

重要度：各項目について、「重要」を2点、「まあ重要」を1点、「どちらともいえない」を0点、「あまり重要でない」を-1点、「重要でない」を-2点、「わからない」を0点とした各回答の合計点を、不明・無回答を除いた回答者数で除し、平均点を算出

2 子ども・若者に関する調査結果

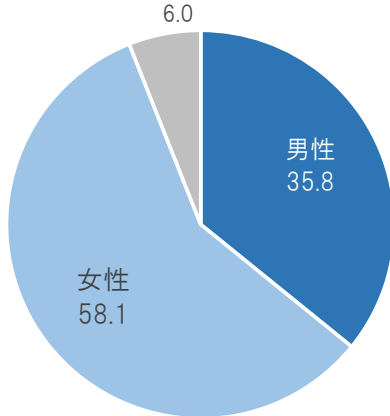
回答者の属性

回答者は女性、30代がやや多い。

●性別

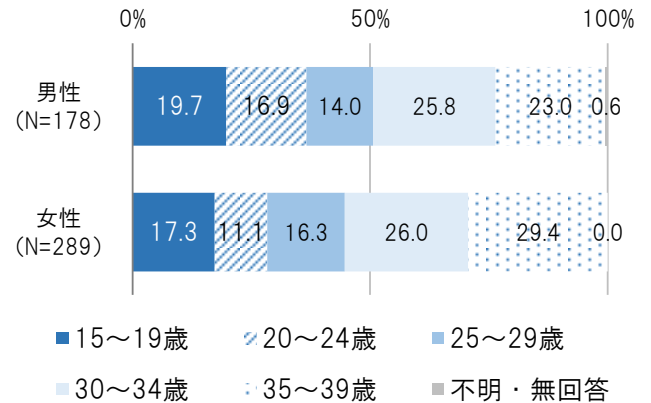
〔若者用調査／問1〕

若者 (N=497) 不明・無回答



●年齢（性別）

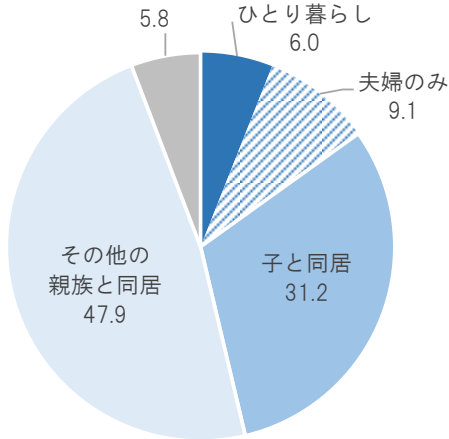
〔若者用調査／問2〕



●家族形態

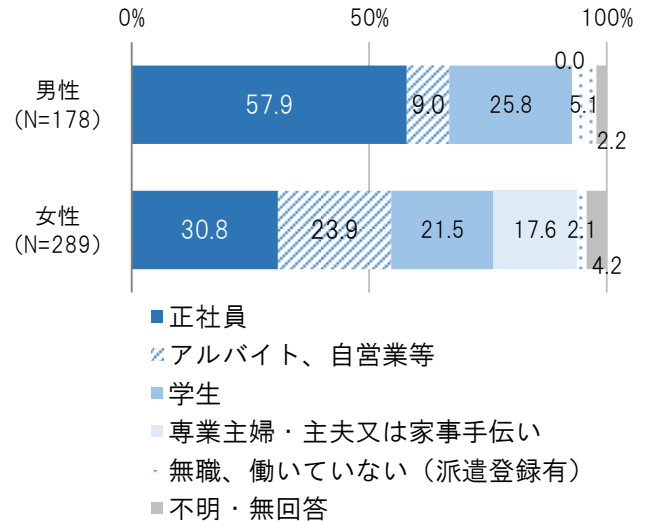
〔若者用調査／問4〕

若者 (N=497) 不明・無回答



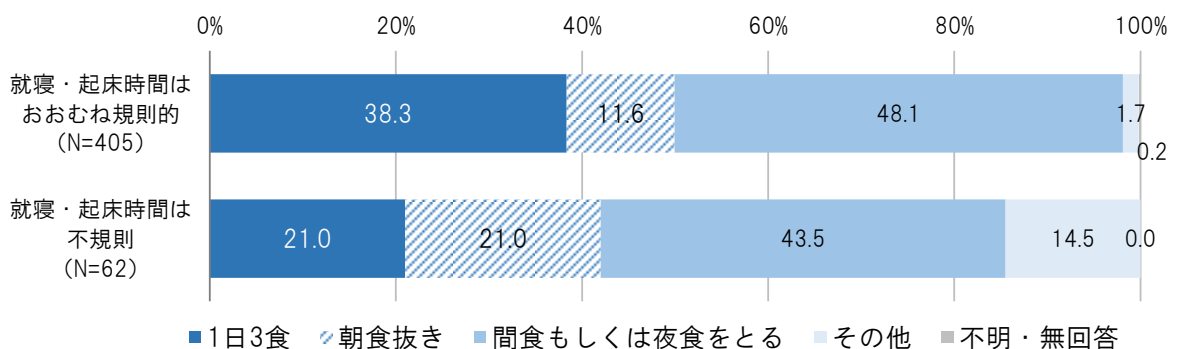
●就労状況

〔若者用調査／問20〕



●普段の食事状況（睡眠の状況別）

〔若者用調査／問5〕



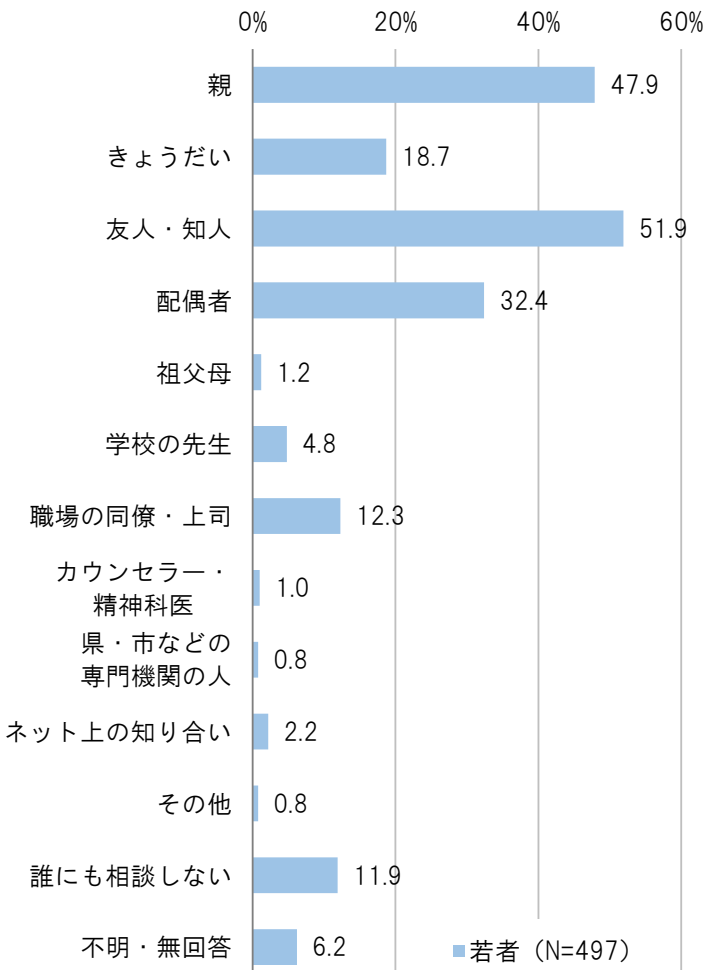
若者の相談の状況

男性やひとり暮らし世帯では、誰にも相談しない割合がやや高い。

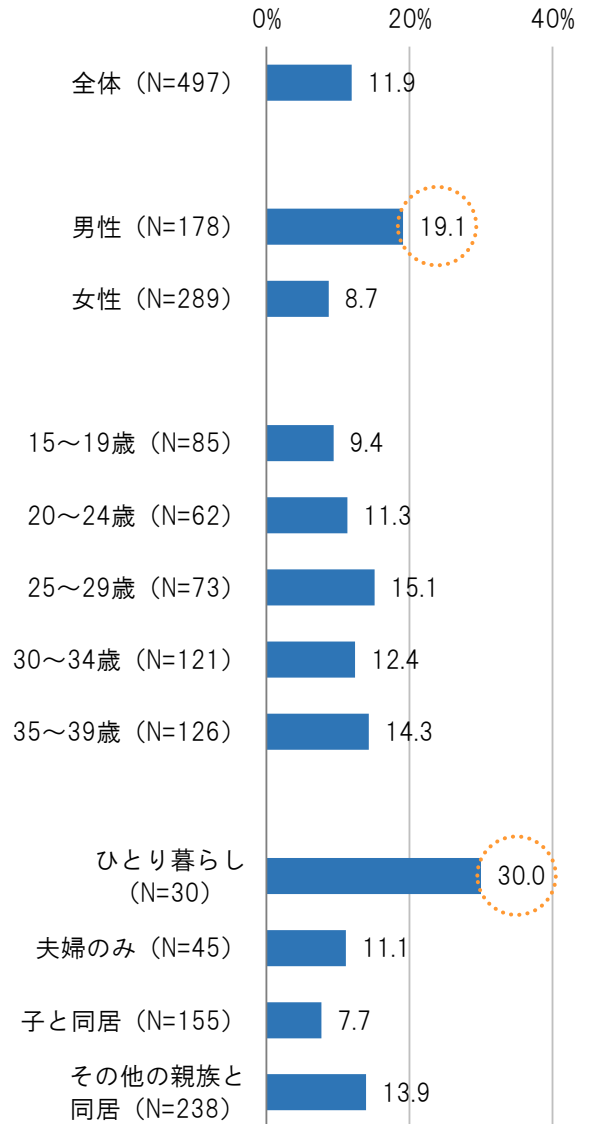
日常生活の悩みや不安の相談先について、「友人・知人」「親」「配偶者」といった身近な人の割合が高くなっている一方、「誰にも相談しない」が11.9%となっており、[男性] や [ひとり暮らし] では、その割合がより高くなっています。

● 日常生活の悩みや不安の相談先

[若者用調査/問9]



【「誰にも相談しない」割合】

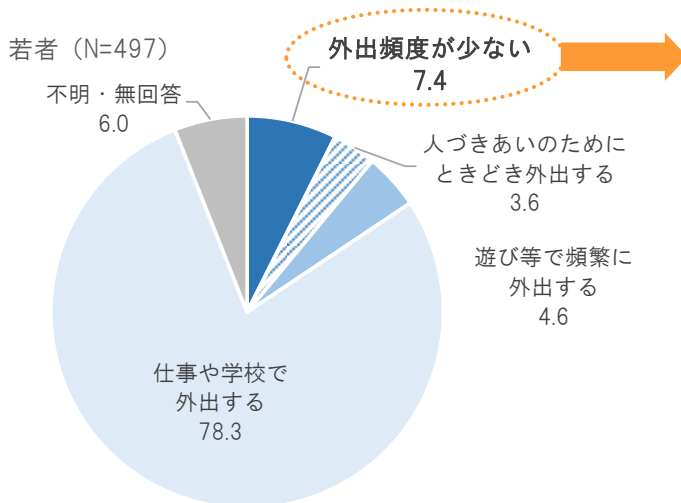


外出及び、ひきこもりの状況

大津市では広義のひきこもりは 1.81%、ひきこもり親和群は 7.85%。

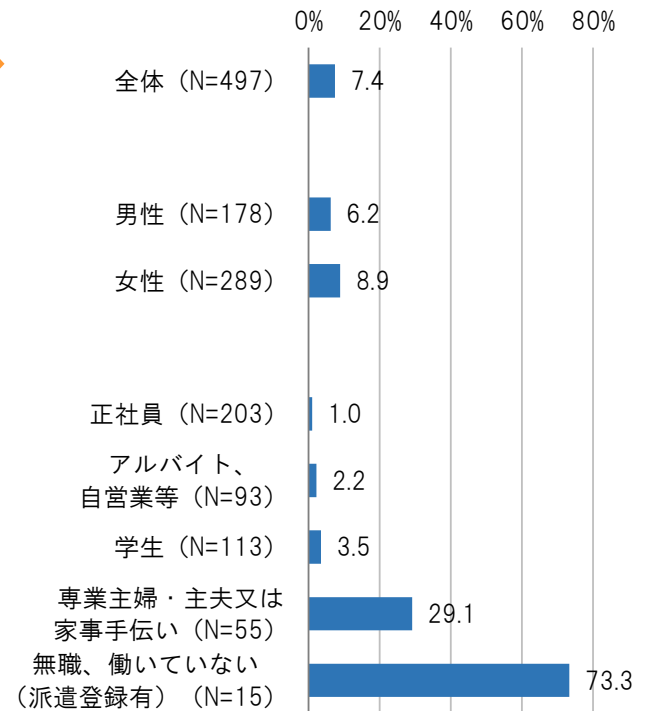
● 外出状況

〔若者用調査／問 12〕



※『外出頻度が少ない』は「普段は家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する」「普段は家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」「自室からは出るが、家からは出ない」「自室からほとんど出ない」の合計割合

〔外出頻度が少ない割合〕



〔ひきこもりの状況〕

分類		内閣府「若者の生活に関する調査報告書（平成 28 年 9 月）」		大津市（本調査）	
		全国の推計人数	有効回収率に占める割合	大津市の推計人数	有効回収率に占める割合
広義のひきこもり	狭義のひきこもり	17.6 万人	0.51%	174 人	0.20%
	準ひきこもり	36.5 万人	1.06%	1,443 人	1.61%
	合計	54.1 万人	1.57%	1,623 人	1.81%
ひきこもり親和群		166 万人	4.82%	7,038 人	7.85%
ひきこもり傾向群 (広義のひきこもりとひきこもり親和群を合わせた、本調査独自の分類)		220.1 万人	6.39%	8,661 人	9.66%

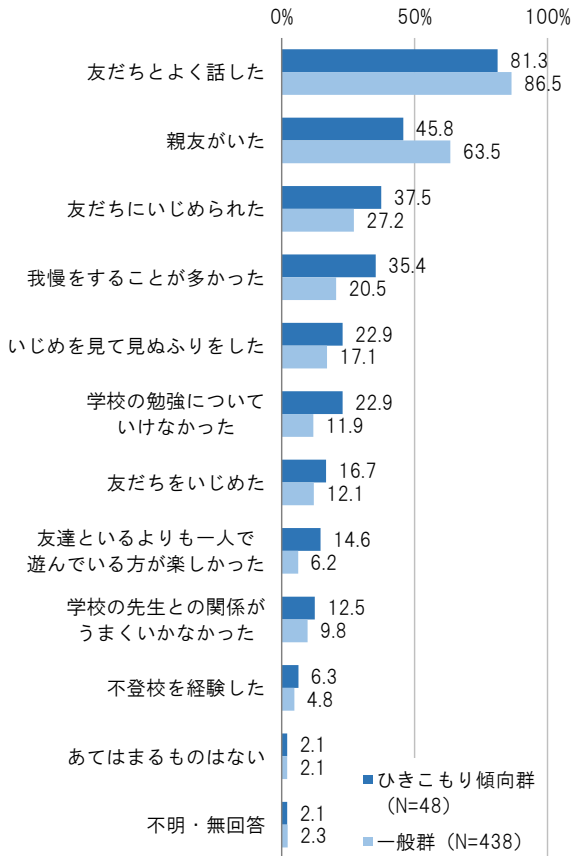
若者の小中学生の頃の経験

ひきこもり傾向群では学校、家庭ともに我慢をすることが多かった割合が高い。

小学生や中学生の頃の経験について、[ひきこもり傾向群]では、[一般群]と比較すると、学校では不登校やいじめ、我慢の多さ、学習の遅れや先生との関係不和といった経験のある割合が高く、家庭では親との関係性の希薄さを示す項目やしつけや成績評価の厳しさ、過保護や過干渉といった項目も高くなっています。

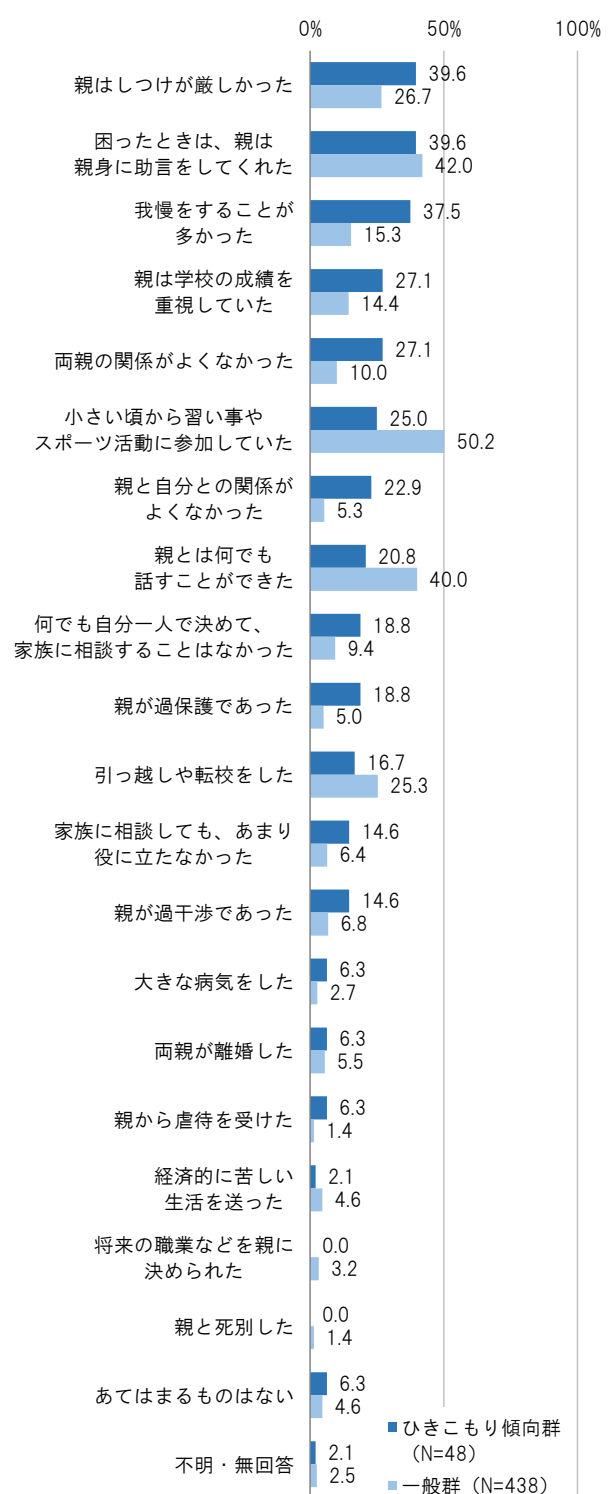
●小学生や中学生の頃、学校でした経験 (ひきこもり傾向別)

[若者用調査/問 16]



●小学生や中学生の頃、家庭でした経験 (ひきこもり傾向別)

[若者用調査/問 17]



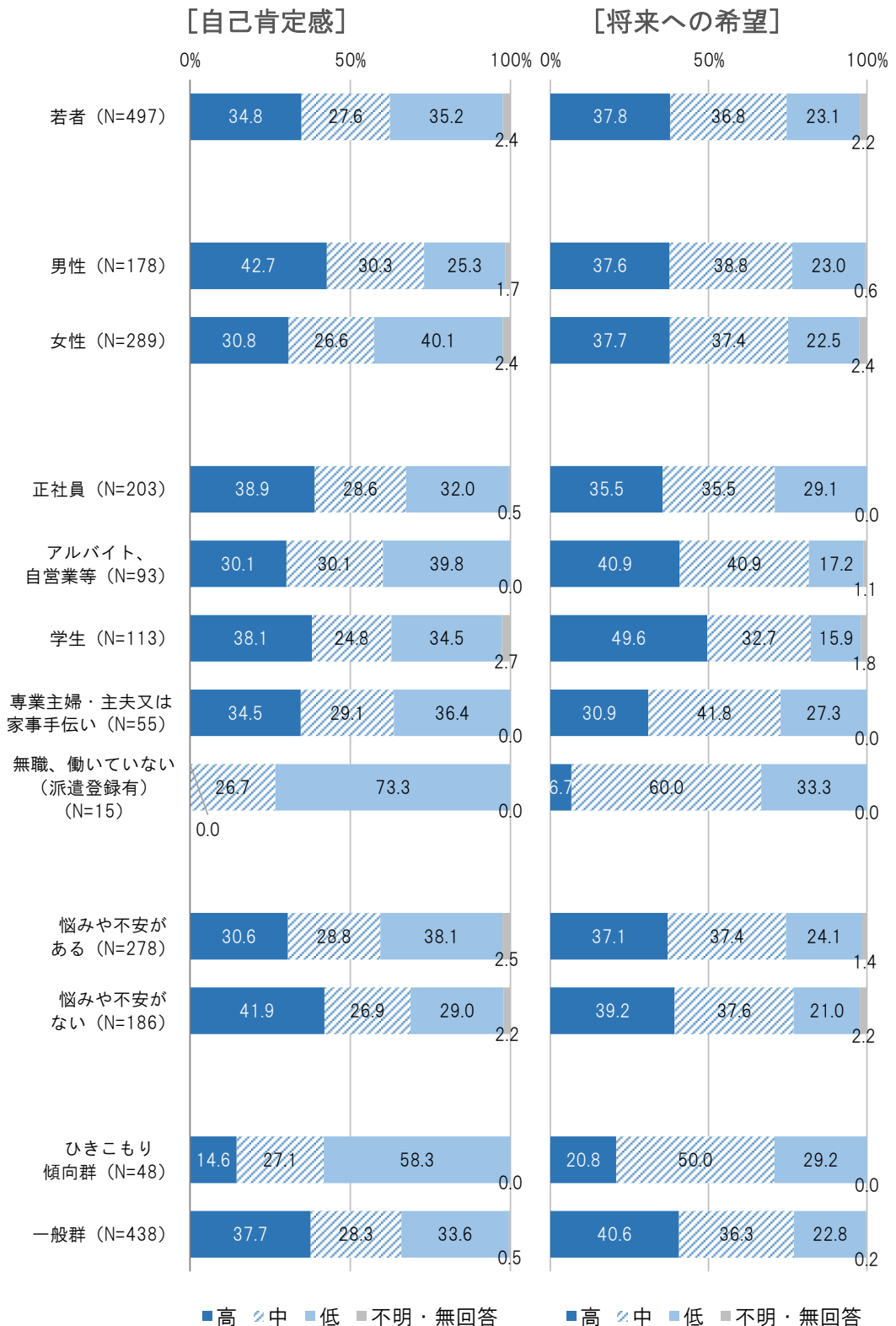
若者自身の意識や態度

ひきこもり傾向群では自己肯定感、将来への希望等の自己評価が低くなっている。

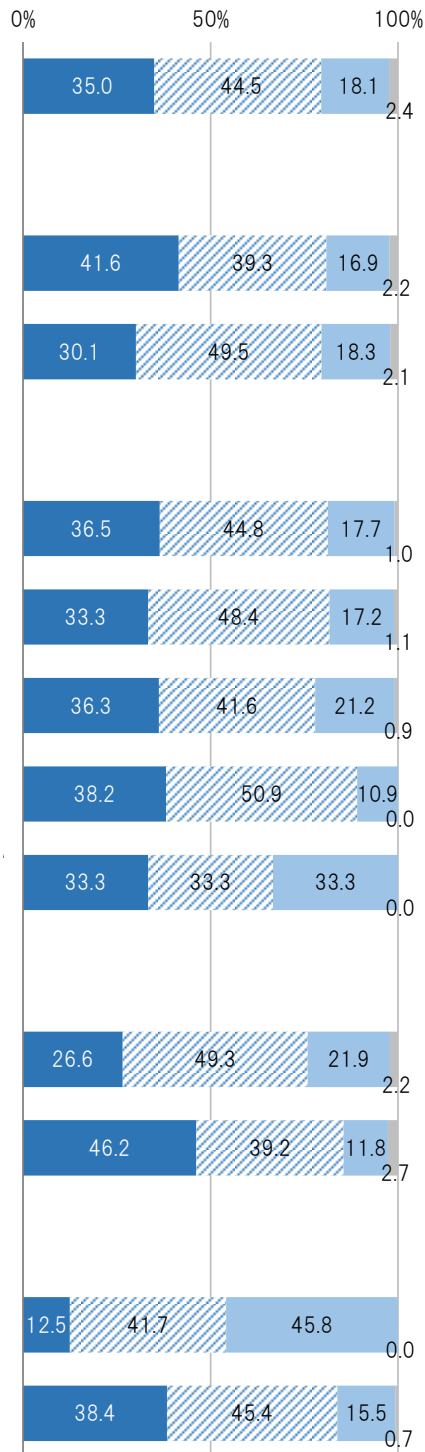
自分自身の意識や態度について、小中学生の頃の「遊びが少ない」人の方が自己肯定感を育みにくく、新たな挑戦に対して消極的な傾向があります。また、[一般群]と比較して[ひきこもり傾向群]では、自己肯定感、将来への希望、自己表現、他者との関係構築力の自己評価が低くなっています。

● 自分自身の意識や態度

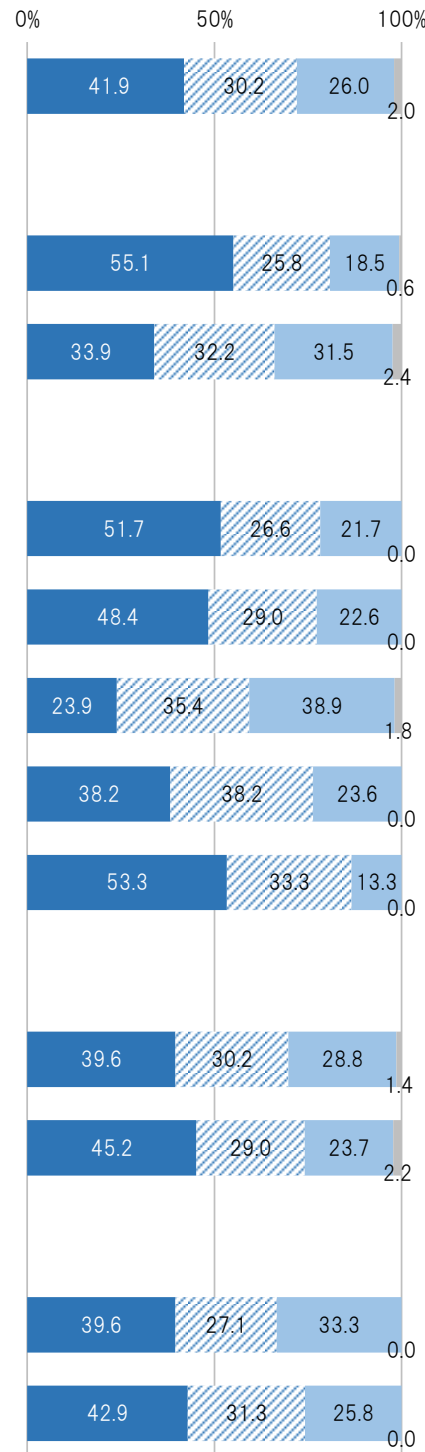
[若者用調査/問 19]



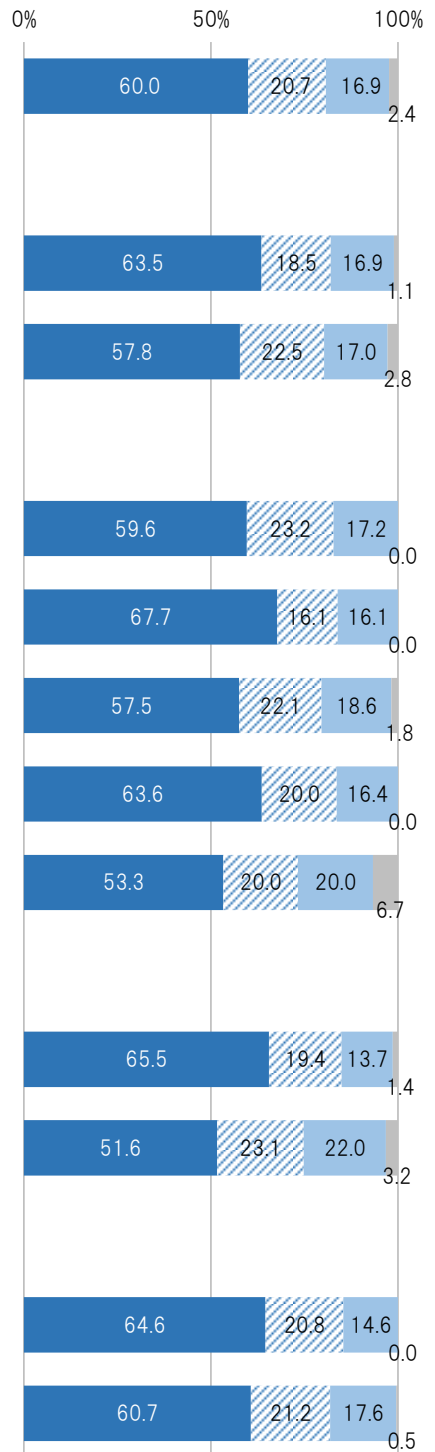
[自己表現、
他者との関係構築力]



[決定における自律性]



[干渉嫌悪感]



■高 ▨中 ■低 ■不明・無回答

■高 ▨中 ■低 ■不明・無回答

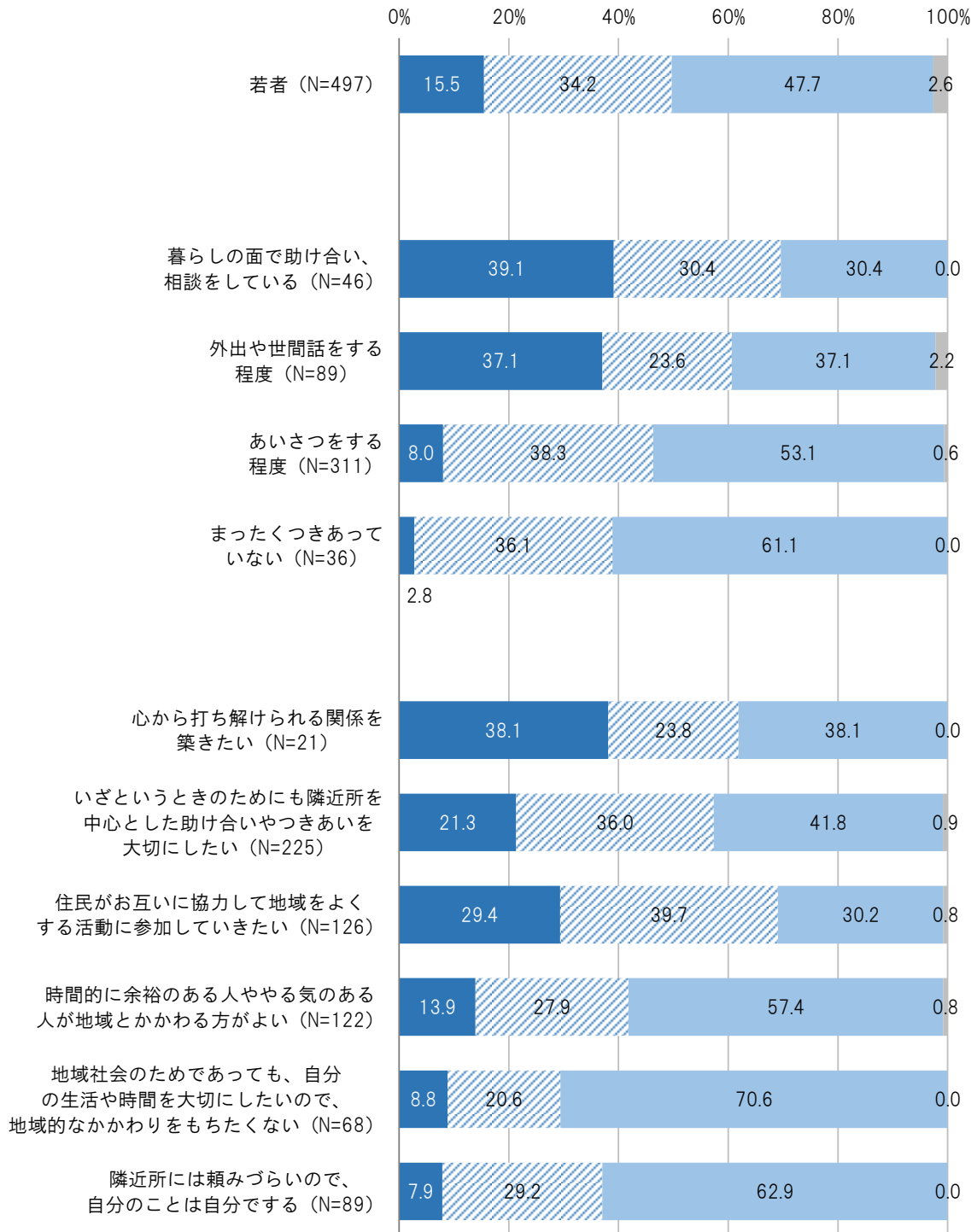
■高 ▨中 ■低 ■不明・無回答

近所づきあい、地域との関わり

近所づきあいが深いほど、地域での人と人のかかわりを求める人ほど、地域活動に取り組む割合が高い傾向にある。

● 地域活動への参加状況（近所づきあいの程度別、地域でのかかわりの考え方別）

〔若者用調査／問 25〕



- 現在活動に参加している
- ▨ 過去に活動に参加したことがあるが、現在は活動に参加していない
- 活動に参加したことがない
- 不明・無回答

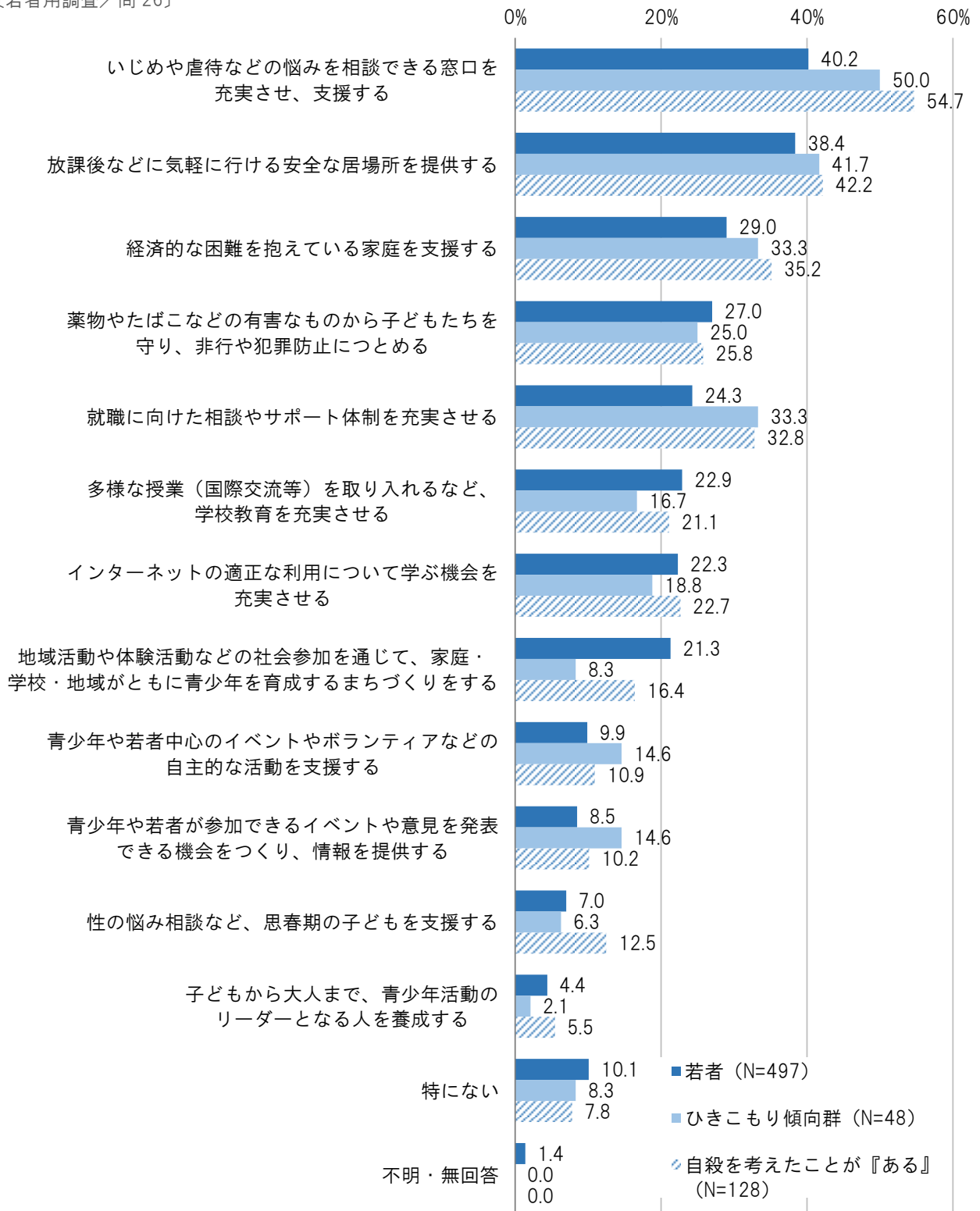
子ども・若者施策に関する希望

若者からは、安全な居場所や第三者への相談の機会等が求められている。

市の取り組む子ども・若者の政策への希望について、[ひきこもり傾向群] や [自殺を考えたことがある] 人の、安全な居場所や第三者への相談の機会、自主的な活動や意見を発表する場の充実を求める声からは、自身の将来の希望を見出したいという思いを垣間見ることができます。

●市の取り組む子ども・若者の政策への希望

[若者用調査/問 26]



次 期
大津市子ども・子育て支援事業計画
第2次大津市次世代育成支援行動計画
大津市子ども・若者プラン
策定のためのアンケート調査結果報告書
(概要版)

発 行:大津市

〒520-8575 大津市御陵町3番1号

TEL 077-523-1234(代)